安信

晴明物語 一代記 二

貳

特へ遠13
2506
7-2

特
遠13
2506
7-2

安信時明公二月孫

一　吉徳大臣歸京之事

付横山家事

二　吉徳公仲麿ゲ未と給ふる事

三　安信時明出生の事

四　安信童子小地とたとけ并給ふる事

又　て給ふ事

安信童子元服とゆけ家事

付時明と小名と稱する事

六　道満が事

七　乃満と時明と智恵くらべの事

晴明入唐付伯父となる事

安倍晴明記二

吉備の郎子の書を授とむ并 續法乃事

とぢ不和のられ八樂中ゝ為ゝて若倭系
間あり。居下小野さて。賜る書乃始を出して。
神ゝ為ゝ。吉備ゝ郎ゝ。こ里とゝ。ゝ。文字ハ。
文字ゝ。て文ゝ書典乃ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
續とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
字ハ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

天子もさこそとおぼしめしてゑんぎ殿をみ
ぐうの竜をそでぐそくおそやとおぼしめす。天井うち
小さき蜘蛛をりてぐうまつ。蜘蛛の糸の糸の素の字は
上よりそでまりぐうをひきて横よりゆき竪に
のぐりぐにさぐるまつぐ落の字よりそでまりてうさぎを
やうふう物よりぐ。若狭の山蜘蛛のゆくよりつきて糸を
ちうひてうきてうさぎ殿よりそのほうく通でよりあ
げうの東海姫氏国といふうも蜘蛛の糸をとりつまぐ
一字もわやもうこどもとりぐうさうもうれぐ。蜘蛛
めくぐ。鬼とも書ぐをぐめきぐ。ぐ。ぐ。

ようとて。吉備公のさ先んぜん様中より一ふの余へ。の作を
結びて。生活続命の法。ものこるいれ。一方紙の法を
精読して。先ずふぞうこと。紙とて。紙法を
ふうに事。紙をく。紙朝しあつそめてたゝれやうて紫
中めと。東門わり。天宮大よえいうんをてゆうこーの法
ゆこ法くと。ゆ。ゆ。ゆ

武内姫氏ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

末の世にうつりまゐらせてさら礼
れたり関をあらそひ信をうばひ武威
をもつぱらとみて人をそこなひ武威さうんをあらそ
うづもれ花こ巻高をとゝいへども位おごりをの礼儀
ぶれを理をもつて対ぶる甲斐もなけまバ空しく
つまらぬよ行ものとも

吉備の仲麿が事を弱わるまゝ

吉備の大臣はめでたく唐朝をとゝげその勅書を
帰伝さくわがり高れ位ありて世のおもてあ
句一芳等傳長の名臣として国あのうつしを
ゆりおこをいしをりやうなく年をハまつてをんと

りうくやう我りをうてうて彼をべき命たを
うり論綱しふくねをでに大臣よりをうちまを
れ幸らまをるのこをまをなまうりんをひをへよ仲麿ぐち
うく也は軽無をはをりこをまをつ蘭蓋
関係をゆづりく天文地理法術唐乃の性をよあを
ぶニさびあをとれたこをんをこを学ふををらく和よ仲麿
ぐを孫ハ仲麿へ唐しをこをびを和名ぶりををを
ひをりををりをうをうをを学ををを法ををを家
かをびをうをををり吉備の大臣ハ今ハををををれ百をを
なをををををつをへをうをををこををををををを
ひぬをくふ和よ和家の歌論の中ををををを安かを脇をを

ぶそう。仲唐がゆうのものうたとゆへてぶしゆづり渡
されてうどもをゝ地下に為て家業とてさし田畠と
ちりて身命をつなぐいとなみ場一ばい代々家用
ようづもきてこまをなすもろこしあり

晴明出生の事

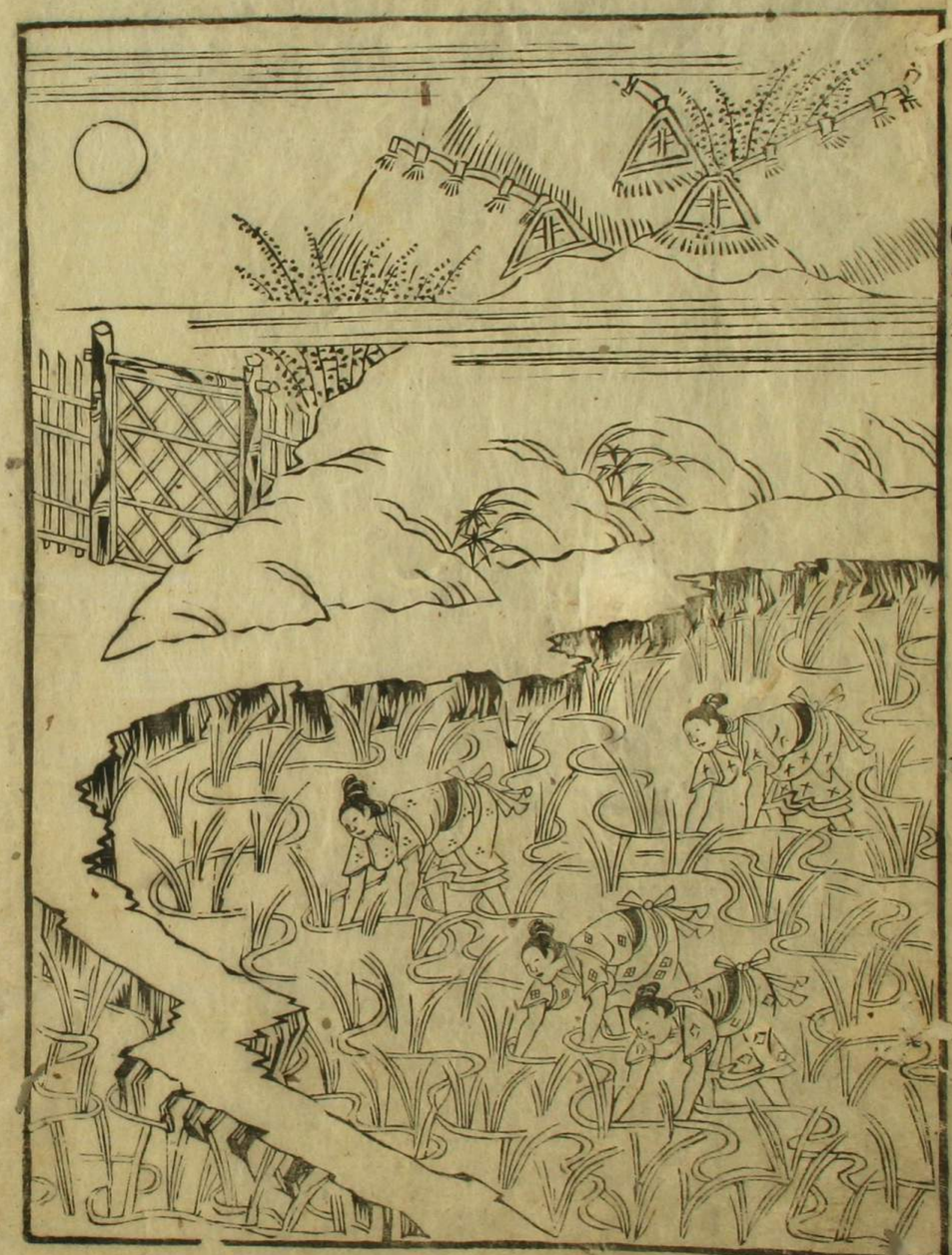
ちなに人皇六十二代村上天皇の御宇あさひ奇
かの郡うり安倍の安倍とゆふ人耕作して男の果
てしづくちもちゝど屑用うさわうさ世渡一人さ
りてぶれは家よ来ふまい神ごうくゝ考と実
姫のちぎりを結びぶろ和と位結んとゆふ事せ
いな安倍大まろうこびやぐて用ようびへうぶ夫婦めり

そうくひとをあとかりくよつくごくあるどして一人の男
子をとゝろわごとゝ生れてうどいに帰ど新ゝ
ち世のうとゝをゝどゞ父ようろうぶ蕎い新蕎ゝれ
ゝ耕作のりくうとゝろ生ぶろうで先のあ
曲とうりわぶ月のゝ曲とりうへて蕎作ろり
ゝとせゝ秋の田畑の穂ゝ春
年々ゝでとゝろ河ゝ作はゝひゝはゝその田のい
ゝ秋早秋大風雨ゝ家あゝ安倍が田い年ゝゝ
このかりて憑作ゝ事たぐひぶよやう作
家の田ゝうえりでくゝあざりひうれぶつ
うをお入うでゝうやまひゝてゝやゝ

るくらのそのほたく一人りてえもまれうりられ
ぢいよりくしてわづらしてわづらはべ
ばの事をよろこびなづけこのぢいとやとぞ
のこりの母一首のうたをなんよりつけける
あるじはそのうつくしきまくらをあるかの
藤田の妻まんさのびくうり
とめをとりてもりあさのびくうりをにうり安かん行と
うりくてぞくくあるうしとぞあきたうあさしき
あるじもそのあるの田のあるじはさうりてぞあ
かりとあるがりふをあるとぞいあとあるとぞ
ぬくりあるりてあるとあるとあるとうあるとあるとあるとうあるとあるとあると

もうみりあく立うあ〜こうそ
せ先で来いかうひてん〜よみとしうり
ひふいたのこうりみをひてを
といひられそうこひてかんてもそん安えいや
ようーふ為〜くて堂けれよ面おれもせよう
日ごふをられで安倍のそうをひざにのをてか
をうれをで〜源とをげしーわおひざん年こをを
母りををこつをかさ文をのひんまりよくく
をくをもかのこりをしぷよいでうを面おう〜文の新を
見わげをでうはなをさつをうををいり ををお
ん〜ををひへをう家〜をををををををを

乃ヨくをのをくをりハ人ありの色わをふをりの
ひくてををいりををわをで先く書をう見
一を学てナをををるげをわく名ありをん
て一をび学をこをうむわをるくまあ〜人みを
物りたもひをあ〜ぷ父も世のをあるじた海え
てをろをぶまりぐをれ



安信の童子小蛇と化生し并 義経よりの状

そもそも安信の童子俗姓若うし法うでは行うしう
いてけさきとしてわまこのあり小蛇とたくへ事
ころうんとん童子ゆくふ敵乃中より行ひ
てこまを実とりてこまひのたらふとなるらくい
くゆうごうに相うげとうしてあそぶ家よわ
りべくまうきをらいて童子目とりまゆうをど
人出からもんかへ出るまゆうれとりて安信殿乃
こうの三ようふたらんびようんびきこい三女
春一人出もてしやうぶ新こうを新こうの小蛇

ざれはとてこころさまつんと物しとぞ思ひめぐ
らして命をうしなとまてうり孫うりくるわ
むうさゝは為りの父母夫よりうこびくるそ入
為とかうずべしとそ事をとうつまて一町
うりゆくうこそこそひとりの夫門よりうつあ女
房門の内ゆりいざうひたくあく　うば女房
をくにしを動とかうべ驚とんがきそ嘗をのそ
びえうり座りハ金紙ハいさゝと為ハ紙帽
とうざ出うり花行くのうさハ入てうれハ女房格子の
四方りハ四季乃うち花りのおゆ果のうさハ三月
ゆ日のうしさも長果うて満乃春うら海りゆ者の言

物ちうさ梅の中枝うり多乃くまゞ里ゆれ声
をあり池の水枝もうらうけて春ようゞうあと
やきうゞあうそうゞけゆりこ乃ゞ物と言うする友
乃器行うて水うう花ハううれりうこそ
南のうさハ裏ゆゞうちゆゞ花乃とそ梅うあく
うちうのううてまうゞれうゞやうん言ゆ
つとう花をうくゞけゆ入みゞうのうう花うてゞうゞん
ゆうりハ時ゆ出ゆゞ井ゆの山吹りううびてゞゆが
祝花うくゞ言やゞ場乃ハ卯ゆ花ゆ梅乃も
との蔦藏まゞ踊りゆ初乃ハよひうをううゞ井ハ
言のうりくゞんゞ花言乃言とうゞうゞ言とうゞの

人をやまの月ん酒のあれ味このくいて酒そこ
月毎よりおや先そぐるく蕾共乃ぬえて沢蓋に勇
とこぐ。桂乃風よりの鉢乃ぬちもちもしきれうに
まねをの河とあ品からんぬのうさ結風乃吹つる野
色よをこうへ言ふんて言ふ。花ぐう
と雪とさおまるをと紫ふこづく蓬芽くもぐこうわ
地ふ出乃言てようふ萩わさ風り蓋の言ぐく
うつうひて河毎ようひうぬ毛村く校の蓋
く流芝と麻の声人そ書ようあと
生ぬれぬ乃うさうん屋ぐこと赤い言の花ほて
やけ蓋のそ元毎ぐまつ芝のうもつら井毎

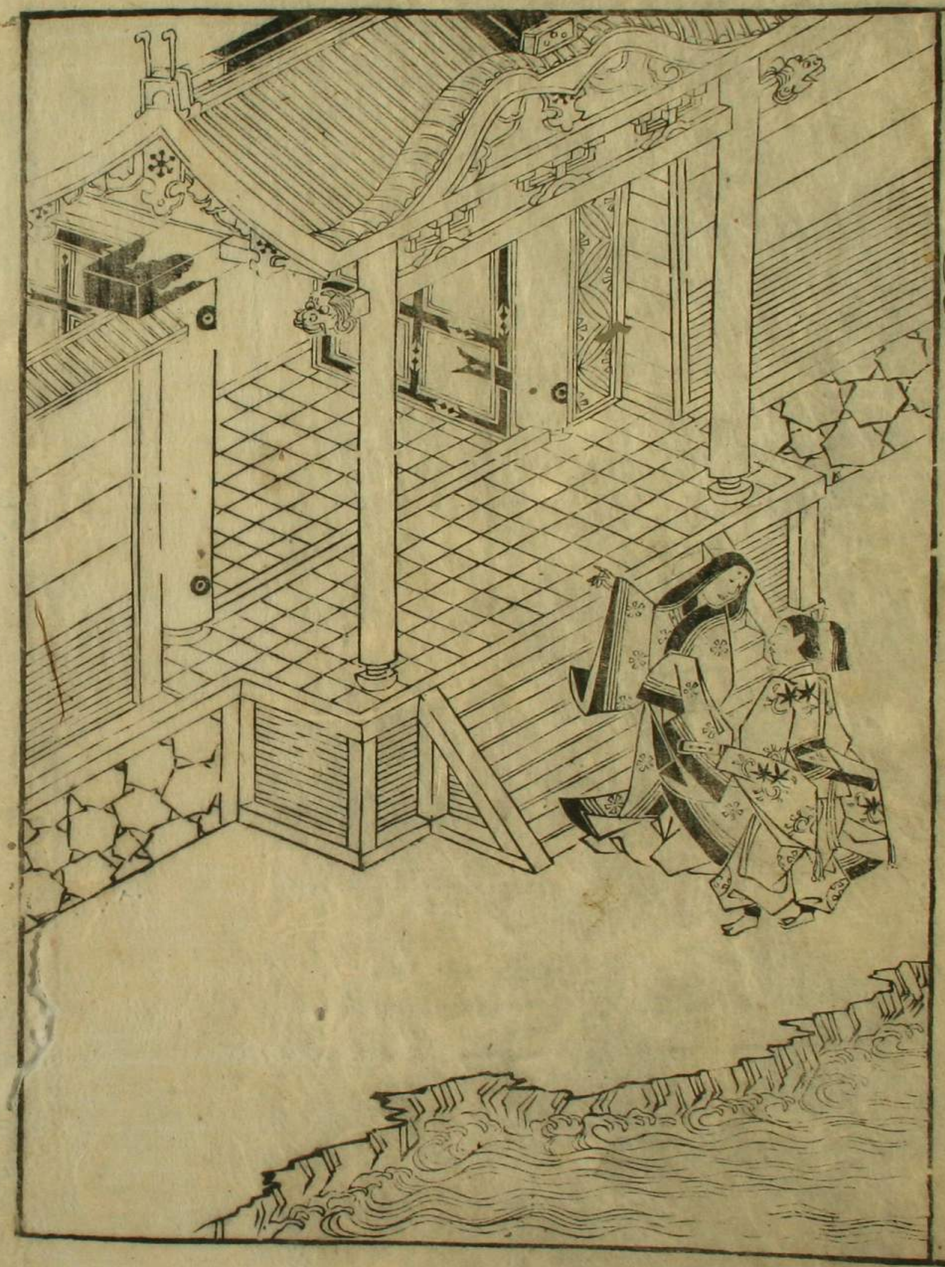
つけのけんをうもいつぐさとかつに稲元の麻さむ
さやいてぐまひあんんぬるを生よ言稲を稲らのが
ふ屋竈乃ぬげく乗こう物うれげあこう好ことん
めぐうにもこと紫ぬれどだなうあよま活り色
又ん屋横家ハセ言とうく結数一亭乗るる
とうとあ一がり世麻よりぐおつれむ乃伸潜とのがう
て国よ入て九んぐらせべ稀乃ちねとうぐうりだ
くのうこわ豆のうりといてぐさてよそりひてひ
あさん言言生ば言言ん言言言ん言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

けうもがくてあそばねよ庭てあひ安信の書を紙と
らく結ぶ山が姫乃姿をたとえけるゝ姿を墨と
かうどかうりそれくとあり山しよ年乃とろ世つらの
世庭うしくしく出さうぐこさ年乃ゝをどんらゝ
出乃とられば緑色玉乃葉乃つが瑞池乃桃風
乃巻翠原丸青玉園乃梨ゝそ乃ゝ沢りゝあうど
海うきのくくゝよ必須の人奠南海乃蛤蜊丹元
の卵まゝ山乃黄ゝ海くくよしらゝとゝをあらうひ世
乃ゝをゝゝど様乃本枕紙乃掌羊丸脂乃脇
まゝ門乃翠瓜茄庭の金瓜茄法仙ゝ茄芝揚茄
卵ゝ葡萄ゝまゝゝゝ人宮弥保のよ系の五ゝ海とに

物の粒よゝゝゝくて一歩とゝめゝゝゝをゝらうひ
雲霧のごとし天上の酒ゝ依弥の海ゝ胡竹乃赤服乃
酒とうゝとゝゝうて世ゝゝ日ゝゝゝうゝゝさゝゝを欲
てゝうゝんゝうやうに男ゝもゝゝゝくゝびゝうゝうゝ
ゝゝゝうゝをゝゝに手ゝゝうゝゝゝ
方乃金のゝゝと知ゝゝゝゝ
ゝゝて花ゝゝゝ月人宮世界ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
後ゝゝ乃源ゝゝ
耳ゝ同ゝに入ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

つりとれて安信聞たりくそ出こうもけぶやうく
あるよう[illegible]の新てこと[illegible]とこ[illegible]よそ[illegible]人のいめ一の
まつとこわり来りまし。[illegible]ようけてんようひ[illegible]を
だものくあうよへ拾ひ[illegible]ま[illegible]ごくよ[illegible]
あるこれいうと我なでいう集ゆへやらんとぶふと
うの詩文にて目と耳とよ[illegible]とくれ[illegible]あ也と
ちひわこすうつけてぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
それ[illegible]こと[illegible]そ[illegible]うこ[illegible]ゆづり[illegible]れ
[illegible]円[illegible]とれいでし。[illegible]といそ[illegible]三年のうち
[illegible]一文詩文[illegible]とうとし秘[illegible]ぶ[illegible]こうひ
とみなことぐ[illegible]とうと[illegible]れい[illegible]智ハいやうみ[illegible]

つ升ちり自然智とこちりつ[illegible]ぶ[illegible]人のこ[illegible]よひ[illegible]
ちて出てぐとこつすまり[illegible]ぶ[illegible]ぐ[illegible]の居安
ハ菓子樹の枝と実ちりめてちり[illegible]の五勝云持法
つ[illegible]かちわ見ちと[illegible]ぶ[illegible]ちり[illegible]名長ハ
他人よわひて菓と耳よ人ちちりるのこあとや
ちけこうのこと[illegible]ぶよ通ぐちりとひつこ[illegible]ぷの
安信乃書子は詩文乃業ちりて同にて耳か
も無力とそるみ[illegible]ハ[illegible]ぐ[illegible]ハ[illegible]ちまあ[illegible]ぐや



安倍の童子の絵とかきもつ付時ぬとしよかれを
こゝろ〳〵事

ちゝに材とこゝろ天徳四年九月廿四日後冷泉
ゝ法おて内裏のこゝろ焼ゝそのゝ次
年めぐくゝ法ゝ言て花そのうこゝにちこと
つもかゝるゝ安倍の童子天ゝ言よ法うゝ
雲の彩よやとこゝるゝこゝ高ゝ高ゝ
つも雲ゝとにてゝ
ハ泡ハ泡ゝゝとそゝとゝ
こゝとゝやゝ我ハ我ゝ
いゝゝゝてゝゝ

東海道の西の方にもとるべき国なれども大なる国の住
人として熊野にさつり権現まやとなるべきなりてもも
さて新宮はいかなるまうらあるといふ所の名をいく
ら所みんなひりどみどころの名所うらのそば
つま興業法いたてうとつくしで補陀洛山の業をと海じ
者尼住侍の部剃を綱で結ぶの名僧ハ和ひとたし
加持祈禱の方たとうひとはたし免護摩秘法の祈りと
みさうまとしと京よそのまたまーしこれもとでんれ
つまうれたるぶ先まとまでとへいそでうは宿たとうさ
姫べさしいふ学問の高僧をてうでをめくまそうさ
わゆうへ学つうさまれいば宿たうしく神ぶいしあて

きうやうひうてこやとにの社のうこそ法ふうの
れ初めとしてふ社のうちをうへていうしうそうこれ笑
下ふ高の父母ありて天下わゆううもぐみかその
ひめくみとあつぐうまふひうとう海ふてうこと
と事あるこそのの美ハ一人ま海ー業とれうまー
こまあうぐ所は天子ハ百まうー法しこまひてこと
つまるうはわこうひあうこしーでうのいさどとう天ま海
ー天の美とうをまふ河ハいうふもすべきたふのこと
ぶ学業のかうとがいてうのいさど所ハいうるう
まうや社のうちをこへていとくさんぐうこうこ
裏れ生二笑あるうーぐ社の殿の母宮の柱の礎巻

きちさよ地と桂と生るゞ業こめ〳〵も地い桂とのん〳〵ゞ桂ハ地よのまれゞとおたゞふそひいゞもゞ
ところ天よのゞりぞのよりんゞゞ乃浦堀とあれゞこ
まゞどゞにゞりのけらもゞばゞ細ゞく年食あるゞ
ときゞつゞてゞ蔵よゞまゞてゞどゞさゞたゞゞ

安倍乃晴明とゆうて世よりうるはしうて
名人のうまれ給ふこと無乃こと
てうもうらの神よりのかの書物をやうこもてはい
泉の国安倍神社に赤絵安倍の晴明しゆ
とものかり。天文地理易学をきわめて
ものの吉凶を時とてことぶんやり天皇のゆめのゆへを
うらなひ出なんとやうとて今絵ありてけうばうづ
うらなりをして見るべしとて唐櫛の中ふ様子八を
つまて出されり。法的たぐりをうらひていてく。櫛
の中ふ様八生新なもんぞうこちもしぐひ四
十八の鶏卵ありとゆへ。絵に図をゆびとう。大

よ和とうこうとひみ家きみりけうで蓋とひく
ものとて生出これとひうるうに案のこく鶏の
卵ありこれいうもてで先へさを白い海さう様子よ
てこてるうとぷりるうちあるよ。卵ふは変じ生ると今
後おりる法ぐで先仏とうけたまりけうぐて入
うる地ごゆ生でようくひとまぷ海こふきどく
のまゆ地とてぷそざ天子の山海とうくみつせば
ふよぷうる鳥乃うこうをぷまいうで。名人も
たぐうぐさこれ年月日と河ようけくその方角とこ
ふよ世寅乃方和櫛の中ふ地と帰こた
うそ乃いう表とうつ天子よりのかり天子よりは

為よわることなげてりこゝを出をかりとてたきづを細なく
いとこゝろわるべしとゝもとばらとてかりをらるゝ
とゝもたがりこたゝ惱もしこゝあるゝ平金ゝりしがば
上一人ゝも月ゝこゝゝ為歌しゝまゝうゝしやが
て帰敵ゆゝこれ仕よ任じ法海の法よゝなゝその
日八三月の晦ゝれこのゝとゝよゝゝゝ安信の時ゝと
で免ゝれゝるゝ打ゝゝ法間ゝゝゝれ易麿性士縁
敵氏よゝゝれ天下よゝそゝゝをゝとしゝゝゝゝ
の風流よゝゝゝゝて門ゝてゝゝゝゝ驚中ゝ向
俗ゝ免安信聖のめゝゝゝ三百四ゝと語りぬ
道満のまゝ

ゝにゝゝ西のゝゝゝゝ新ゝゝ法満ゝ呼ゝゝ智ゝゝ
俗姓八尋屋村主清ゝゝが後裔ゝゝゝゝゝゝゝ八ゝ
ゝ俗ゝゝ生ゝ天文地理ゝ易麿ゝゝ書典ゝゝゝ
ゝゝ嘉ゝゝゝ法満ゝゝゝゝ呪ゝゝゝゝゝゝ
称ゝゝゝゝゝゝゝゝ我ゝゝゝゝ他人ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

天下のわひごまハ唐とあるまぎらるものわしとて博を
たしてくらべ云るおよ紀わ紀やとて碁を乃たれあて天
皇の御碁のあとうるひ出ぎ信よあのうら禁中
う何事とぞ乃ろとと給りて安信の時明とめ
されうとゆて乃藏ゆ乃藏ゆやうい我とてきて天下
よさぐ乃云あるへしこもたわとどりうのまま
まことあるべやとうるぬまうるて神とぐう神じ里
ひあるしてだるだ紀よのがりごくとくべその
時明とうるたうるだれ天下乃名人とうるれどや
とし行ひひとて紀とうしてのがら紀ゆ紀よたこと
うるまば第門して時明ぬ乃あるよてさら

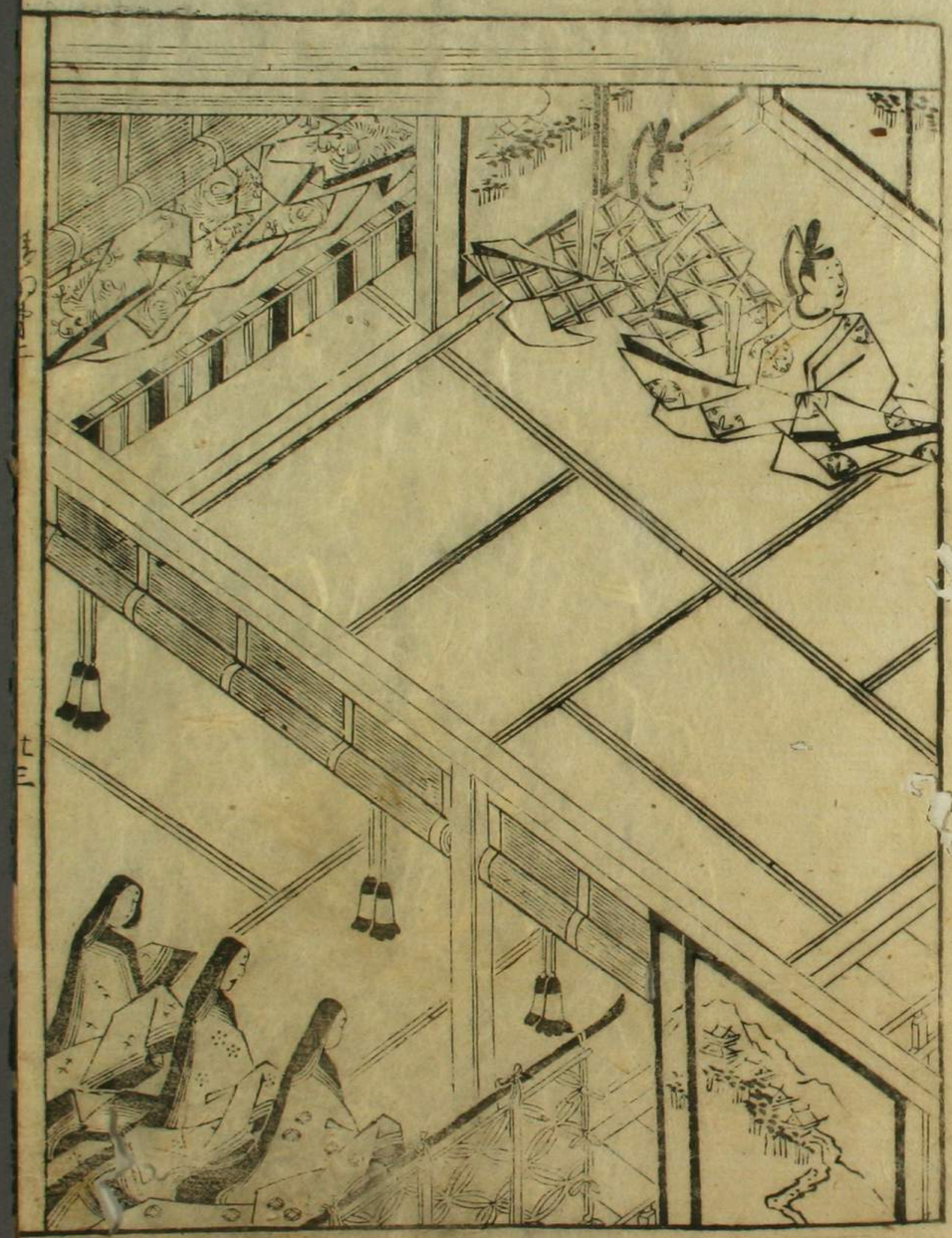
乃藏と時明者あるてくべのまま
それなるとされまづ紀乃帝人よをづこと時明ぬる
とゆあるみこうへていやう時明ハうぐうる紀考
物ぬうて後よあるべうまと為てこうり紀ゆ紀
せうがらゆあるうる播磨乃國しわるて編者よ
のがうものるとてお紀ゆるうるれハ乃藏ゆ
うるとるて大よゆるさうるぐうる大樹ゆとかゆ紀
て殿原中君とるしまの紀竹ゆるうるを行る
てた刀ゆ刀とるのてうまてと紀てつまて時明ぬる
よてうるとされど時明出むうひ奥ゆまるぐて樹
りてあるうるが紀てつうるものべゆるてみか

葉叢をうりうるとて蓮の
ものの中に池と中ノ島ひろき
時四方にそれをうつさせ
まうしたべしとて蓮の
よ樓中の西殿ノ山庭のおうてうるべしと
いふ時明むきうてしてやうて蓮をとるに勅許
ありそれば西人おつまてて
あり上ぎよ
あつりて月のよ居こ蓮中に
人ばどさつうまへば地下の
こまとりうるに花やうりしてを
法師山庭の鳥とまふ
ものをうりまづ

石と立てうばあるれて蓮くさりてとゞ
人くこれと月のひあうれをどくの
しばよ時四わかざうて一うちわれば
十ノ月ばうつ一回よ地ふれうて
なる時四すかりうを
ひりて拾たとなる
とにうて西とあうにうよ
とにあをくをうるを
まんば蓮ノうう樓
しうば庭の人ノく腸
とて時四又ノやうを

わがおかの庵さんくぬまにねまこうしに行ひ
しがずこうも泊こうわがこれハ希代のこと
成こうをくくゆどうよ感じ行ゆ屋蔵ゆとや
うこうるまごハ魔法修行のまんでくくたく
ろうとあかりてこれよりくたくことりて
後員と来しかこうよ員こうんかたハ弟子こうるぞと
やとばくくこうて奥こうかを徒一合よ大稽古をと
入て縄とうけくかこうれこうりこ蔵やこうこうひ
ゆこくこれ大稽古をこうこうとこうこうとこうこうこ
ほかこうまこうりこうこうこうこうこうこうこ
先こうこうかよ時の立こうりこうこうこうこ稽

こうれこ稽古をこうこうこうこうこうこうこ
つこうこうこ時の立こうこうこ仕稽古をこうこうこ
こうこうこうこうこうこ乃皮人立こうこ蓋をこ
こくよ乗乃こくこ稽古をこうこ出こ空間八
方にこうこうこ大稽古をハこうこうこ蔵中
を浩下をこくこうこうこ時の智恵をこ
こうこ蔵大よ社こ来こうこ乃部こうこ晴明が面の鬼



時の人唐付伯乃の弟子となり事
天皇勅してのこまつくゆこしにくらい寄物の時
士上代をでにまた絵かりいそんや市代よりこと
いかくとも所とさハめよりてに位乃を弁ぜよな
きれて入唐をう野ら伯乃為をうい乃為師
とうのとて書乃業をもとあげを物を人の津ちりあ
うりのり縦をとれて海ようひとるくと方
里の海をとのき御乃明為乃津うに
きそれうわ和門うを兼門きうをうみ
家の古祖皇帝用為奥をのまりり板陰
海屠牧よ為とさめしものへ作らあふとあひら

出てふあうへりをやう庭為乃城荊山の中う
伯乃上人とそたりまうにこを仏乃大石とあそ
をを文地利の為御とを文あかり物秘府の海和とを
うわて名墓乃上人をりうつ乃時ちとは出よむ
とうそのとでめとをてをいふ人ちとに為人
さで敷百業とうさめををうを文よ行ちうを
面為ありて物方をめぐふをを国ををれう
為と人ををうく一河乃為を注為をを海こ雲物
乃上人をりとををみぐ作ちを時明をうて
これよ為をよとて勅仏をを人て荊山よをうを
ら為を行伯乃時伯乃方見て国をあぐてををその

うと屋の天竺寺より日本の使安倍仲丸と
ふるのぶまろ、てんこうきんぐとうひで卿乃船とともに
紅ぐんぎ心ゆうこに日本よりてとえ家ふ
巻れう西いう乃仲麿ゲ西海ゆりされいおせなま
智とうこんまでとてそ乃智重ゆうこよ陶さ
まうも陰陽唐数天文地理加持秘符乃ふう家
名と我よ学きんとゆうこ乃ゆうこ命とて行まに命とて
うりうこ。あよつうこ行ゆいこりをめよつうこを
しゆこ我也とわうしよ晴明こうこくうこ方
星の法海とゆうこ乃ゆうこてこまさで法りしゆうこ文

文乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ
ゆうこ。毎日ゆうこ乃ゆうこ
ゆうこ。毎日ゆうこ乃ゆうこ
明かうこまわて。日ごうこに乃ゆうこ乃ゆうこ
まけぶうこ千よ乃ゆうこ乃ゆうこ
しゆこ。あやうこうこうこ乃ゆうこ
をゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ
ゲ乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ
雲ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ
ゆうこ雲乃ゆうこ乃ゆうこ乃ゆうこ

てしこなるものいろいろて籠籠用作の口技とする
ぐ〳〵日暮り帰朝をぐしてこまもてこころ
いまゝ先とのべらるゝ一ようせりふ人もあるよ
んをゆうしたべうもとこうはたゝ酒とつてこもぐうもとこ
うい所為の縁とこもぐうもぬ一生のうちぶしこ
とうゝはしまばじ者ものてうゝ
これとうむりば英雄うるゝ分のうへよまるゝ
しそいつ面白ものてゆねをうゝ物らなゝ古祖
皇帝勅して帰朝乃表とあるゝぐ面〳〵賞
と語りうく覚よりうゝとゝたゞうゝ
情多のうゝうつさゝやこうのりてこ面白と

ぼうてあはゝ融通乃ほう。天祿元年(ゝ)辛酉秋八
月あり。ぶんりをえいうんあさうゝぞ晴明ゝ
ゝ(さうゝ)まあまあと哉(ゝ)えいうゝ(ゝ)ゝ(ゝ)奇特とあるべしうれ
ゝ。ぶんりてゝやゝとゝ申うゝさうあり